

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>【めざす学校像】 ～ 日本一の高校をめざして ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校。 ○ 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。 ○ 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。 <p>【生徒に育みたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲) ○ 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力) ○ 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志) ○ 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ) ○ これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力(「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含む学力)
--

2 中期的目標

<p>1 学力・人間力の育成</p> <p>(1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および新学習指導要領がめざす「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、新学習指導要領・高大接続改革を踏まえたカリキュラム・マネジメントを行う。</p> <p>ア 新学習指導要領の実施に向けて新たな教育課程を編成し、天王寺高校の将来を見据えたカリキュラム・マネジメントを行う。</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取り組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。</p> <p>ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、バランスのとれた文武両道を追求する。部加入率95%以上を維持。(H30:99%、R1:99%、R2:99%)。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(H30:74%、R1:75%、R2:73%)70%以上を維持する。</p> <p>エ 天高育成プログラムに基づき、多彩な行事を通して、豊かな人間性を育む「全人教育」を実施する。</p> <p>オ 新学習指導要領が求める観点別評価及び高大接続改革における主体性の評価について、これまでの取り組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざすとともに、効果的な活動記録の取り組みを進める。</p> <p>カ 4技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む</p> <p>ア 天高育成プログラムを基に、各教科で3年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。</p> <p>イ 研究授業、公開授業を充実(教科の枠を超えた授業研究)し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする(H30:7.0回、R1:7.6回、R2:12.1回)</p> <p>ウ 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均3.45以上を維持する(H30:3.47、R1:3.48、R2:3.49)。</p> <p>(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ</p> <p>ア 文理学科全員が学校設定科目「創知」において行う課題研究について、これまでの指導・運営・評価方法の研究成果を生かし、全教科教員による指導体制のもとでさらに充実発展させる。</p> <p>イ 「創知」におけるカリキュラム開発の成果を広く府内外の高校間で共有し、新学習指導要領の「総合的な探究の時間」や「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。</p> <p>ウ 桃陰セミナー・部学習日・休業期間や放課後の自習室の活用を一層推奨する。→ 自学自習の習慣づけ</p> <p>エ 大学進学実績の維持(国公立大学合格者現浪合わせて270人[9クラス規模75%]以上の維持 H30:277人、R1:326人、R2:290人)</p> <p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p> <p>(1) グローバルリーダーの育成</p> <p>ア 英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内でのオンライン交流を含む様々な国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身につけさせる。</p> <p>イ アジア各国との交流を、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③国際研究活動の機会として継続する。</p> <p>ウ グローバルリーダーズハイスクール10校対象の広域研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。</p> <p>エ SSH指定校として、科学に秀でた突出人材の育成をめざし、大阪の拠点校としてSSHの成果普及に努め、大阪サイエンスデイの取組を継続する。</p> <p>(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。</p> <p>ア 障がいのある生徒に対し、「障害による学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定している学校教育法を踏まえた天王寺高校としての生徒への支援体制を確立する。教育相談委員会活動を充実させ、担任、学年団、カウンセラーが連携して発達障がいなど様々な原因でつまづきを感じる生徒を支援する。</p> <p>イ 天王寺高校いじめ防止基本方針に則り、いじめアンケートの対応や事象生起に際しての迅速かつ組織的な対応ができる体制を維持する。</p> <p>(3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきグローバルリーダーズハイスクールの事務局校として各大学との連携を進める。</p> <p>3 教員の資質の向上</p> <p>ア 新規採用教員ならびに着任後の年数が少ない教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。</p> <p>イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。</p> <p>ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方に主眼を置いた研修会を開催する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者による回答 有効回答数 910/1078 (1年307・2年297・3年306 回収率84%) 回答率84%と例年通り高い関心を寄せていただいている。各質問に対する肯定的な回答の割合に大きな変化は見られないが、「学校行事は子どもが積極的に参加できるように工夫されている」と「この学校の部活動は活発である」の二つの質問については、肯定的回答が7～8ポイント減少している。コロナ禍による臨時休校や行事・部活動の休止、中止、延期、縮小といった対応が影響していると考えられ、やむをえないところ。</p> <p>生徒による回答 有効回答数 1041/1078 (1年351・2年347・3年343 回収率96%) どの質問も肯定的な回答の割合に大きな変化は見られない。ただし、「施</p>	<p>第1回(6/19) 令和3年度学校経営計画についての意見 ・授業を見学して生徒の聞く力・質問力が高いと感じた。授業準備はかなり必要であると思うが、それがしっかりできていると感じた。生徒はよく学べていると思う。 ・オンラインを活用するにしても準備に時間を取られては本末転倒。バランスを。 ・コロナ禍でも天王寺高校はできることはできる形で全てするという理念でやっている。昨年からのPTA活動も厳しくなっているが、PTAとしてできることをしたい。教員がベストの状態でないとい質の高い教育活動ができないのではないかと。</p> <p>第2回(11/27) 学校経営計画の進捗状況についての意見 ・コロナ禍で心身への影響などが出ている生徒がいないか。 ・活動制限により、行事や部活動などの生徒の自主的活動のノウハウが繋がらない。その意味で、学校においてクラブの位置づけを、コロナを機に考えていく必要がある。</p>

府立天王寺高等学校

<p>設・設備全般について適切に整備されている」の肯定的回答が8ポイント減少している。南館のトイレ工事が約半年間の長期にわたり、トイレ使用に制限がかかったため、トイレの混雑や北館の遠いトイレを使用せざるを得なかったことが要因として考えられる。</p> <p>教職員による回答 有効回答数 65/69 (回収率 94%) 「学校運営に教職員の意見が反映されている」と「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われている」の2項目がそれぞれ前年より14ポイント、16ポイント減少している。一昨年の数値に近いところに戻ったのだが、昨年度は、年度当初の2カ月間の休校期間中、刻々と変化する状況に対する対応を検討する組織を構築して丁寧に議論を重ね、メールを用いて全職員での情報共有を図ったことが、この2項目に対する高い肯定回答につながったと考えられる。今年度は通常業務に加えてコロナ対応が重なり、校内での議論の時間が十分に取れなかったことが減少の要因と思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入試問題の関係等で塾に行かないといけない状況もある。中学からの延長で惰性的に塾に行っているのもあるのではないかと考える。人間関係に悩んでいる生徒のケアは誰一人漏らさないというご配慮をいただければと思う。 ・コロナの影響もあるが、やはり外と交流することが大切であると思う。 ・GLHS、SSHの取り組みが本物を高校生に見させる、見られるということが良いと感じた。 ・芸術でも本物志向でやっていただいている。質の高い本物を見せるというところが様々な所に効いてきていると思う。 <p>第3回(1/22) 令和2年度学校評価及び令和3年度経営計画に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標に大学受験のことだけでなく、「文武両道」というものが盛り込まれているのがよい。 ・経験の少ない職員について、将来、他校に赴任した時にもしっかりと働いてもらえるように、社会的な部分も育成してほしい。 ・休校時に全27クラスで通常通りに双方向のオンライン授業を実施しているのはすごいこと。もっと広めてほしい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 学力の育成	<p>(1) 天高スタンダードの実施と検証を行い、各教科の到達度を高める。天高育成プログラムを通してカリキュラム・マネジメントを行い、「確かな学力」の定着と「全人教育」に取り組む。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む。</p>	<p>(1) ア・新教育課程の策定とともに、現行教育課程における効果的なカリキュラム・マネジメントに取り組む。 イ・授業改善の取り組みを充実発展させる。 ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブラーニングなどの指導方法を含む授業改善に取り組み、質の高い深い学びのある授業実践を行う。 エ・部活動方針を踏まえたバランスのとれた文武両道を追求し、学校教育自己診断においても部活動との両立ができていく生徒の割合を向上させる。 オ・天高育成プログラムの多彩な行事を創意工夫して実施し、仲間を思いやり、力を合せて、課題に対してやり抜く力を育てる。 カ・「ルーブリック」を活用した「パフォーマンス評価」を導入し、課題研究や観点別評価等の評価方法を確立する。また、生徒の活動の記録・振り返りができるシステムを構築する。 キ・科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者200名以上を維持する。 ク・4技能を備えた英語力を身につけさせる。</p> <p>(2) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。 イ・研究授業、公開授業の充実。ICT活用研究。 ウ・授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。</p>	<p>(1) ア・新教育課程の完成。 ・生徒学校教育自己診断「進路希望達成に必要な学力をつけてくれる70%以上を維持する[74%]。 イ・授業改善に向けた研究協議・情報共有の場を年3回以上設ける。 ウ・学校全体で授業改善の取り組みを進め、学校教育自己診断において、授業満足度85%以上を維持する[89%]。 エ・部加入率95%以上を維持[94%]。学校教育自己診断において部活動との両立ができていく生徒70%を維持する[73%]。 オ・学校教育自己診断で、行事の意義に対する肯定評価平均90%を維持する[92%]。 カ・「ルーブリック評価」の研究と活用をさらに進める。観点別評価に関する研修を各教科で行う(1回以上)。個人活動の記録を生徒自身が行う取り組みを行う。 キ・科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者200名以上を維持し、2名以上の受賞者を出す。 R1 404名内、受賞7 R2 386名内、受賞4 ク・スピーキングテストと4技能対応授業の継続</p> <p>(2) ア・天高スタンダードの改訂を継続し、達成度自己評価各教科平均80%以上を維持する。[90%] イ・教員相互の授業見学(一人平均年5回以上) ・ICT活用に関する研究会等に参加し、職員会議で共有を図る(1回以上)。 ウ・授業アンケートの全体平均3.45を維持する[3.49]。</p>	<p>(1) ア・新教育課程は策定済み。(○) ・進路希望達成に必要な学力をつけてくれる77%(○) イ・6月、10月、11月の3回、授業改善の協議の場を設けた。(○) ウ・各教科でのアクティブラーニング導入100% 各教員のアクティブラーニング導入96.4%(学校教育自己診断) 満足できる授業が多い92%(◎) エ 部加入率92%(学校教育自己診断)(△) 部活動との両立ができていく82%(○) オ・学習講座92%、林間学校93%、水泳訓練97%、社会人講演会93%、京大研修会92%、修学旅行98%、課題研究85%、学部学科紹介98%以上。平均93.5%(○) カ・各教科でのルーブリック活用100% 各教員のルーブリック活用73.2% ・観点別評価の研修と施行を各教科で行い、観点別評価の校内基準を作成(した。) ・第1学年で個人活動の記録用ファイルを購入し、活用している。 キ 科学オリンピック参加322名。受賞者3名。 物理9、化学84、生物35、情報13、地学49、地理66、数学66 H29 263名内、受賞12 H30 325名内、受賞9 R1 404名内、受賞7 R2 386名内、受賞4 (○) ク 1・2年生での英語による授業実践の継続 スピーキングテスト 1年3回、2年3回実施(○)</p> <p>(2) ア 天高スタンダード達成度各教科平均89.5%。(○) イ・授業見学数 平均11.7回 (◎) ・ICT活用に関する校内研修会を開催した。(○) ウ 全体平均 1回め3.52 2回め3.51 1回め・2回め平均3.52 (◎)</p>

府立天王寺高等学校

	<p>(3) 探究活動の充実、 自学自習の習慣づ け</p>	<p>(3) ア・「創知」における指導・運営・評価方法と、 全教科教員による指導体制を継続する。</p> <p>イ・「創知」における取組について、HPを活用 して広く発信し、普及を図る。 ・大阪サイエンスデイ、近畿サイエンスデイ において課題研究の指導・運営・評価方法の 共有をめざす。</p> <p>ウ・桃陰セミナー、部学習日の活用促進を通し て、自学自習の習慣づけをめざす。</p> <p>エ・大学進学実績の維持</p>	<p>(3) ア・「創知」を指導する教員 を25名以上配置して講座 編成を行う。2年生徒360 名が課題研究の成果物を 完成する。</p> <p>イ・HPの更新に努め、成果 普及を進める。 ・大阪サイエンスデイ第1 部における府内高校から の審査員体制を維持する。 [大学教員27名+高校教 員41名]</p> <p>ウ・桃陰セミナー参加者の満 足度90%以上をめざす [95%]。 ・部学習日の参加者数の総 計500名以上をめざす [464名]。</p> <p>エ・大学入学共通テスト5教 科受験出願率、学年の 95%以上を維持 [94.6%]。国公立大学合 格者現浪合わせて270人 以上の維持[290人]。</p>	<p>(3) ア 2年生文理学科360名全員による課題研究に対 し、教員28名による全クラス同時展開の「創知」 を実施。約90班が課題研究に取り組み、校内に おける発表会を実施予定(3/7)。 (○)</p> <p>イ・コロナ臨時休業が続いたため、旧HPの使用を 継続しつつ、最新情報の更新に努めた。(○) ・大阪サイエンスデイは第一部・第二部ともに感 染症対策を新たに講じ、対面で実施した。府内高 校からの教員に審査員として参加してもらう体 制を維持した。 (大学教員34名+高校教員66名) (○)</p> <p>ウ・桃陰セミナー参加者数(実施24回) 1日平均232名 満足度96% (○) ・部学習実施56回参加者 約600名 (○)</p> <p>エ 大学入学共通テスト5教科受験率97.1% (347/357名) 国公立大学合格者現浪合わせて314人(◎)</p>
<p>2 グ ロ ー バ ル 社 会 に 貢 献 で き る 人 材 の 育 成</p>	<p>(1) グローバルリー ダーの育成</p> <p>(2) 生徒理解の促進と 安心な学校作りの ための体制の促進</p> <p>(3) 京都大学・大阪大 学との連携</p>	<p>(1) ア・オンラインを含む様々な国際交流を企画・ 実施し、国際感覚を身につける機会を充実 させる。 ・姉妹校提携を結んでいる台北第一女子、武 陵、ホランドパーク高校との交流を実施す る。国際交流委員を募り、生徒が主体的に 参加する交流プログラムを確立する。 ・校内留学プログラムを継続実施する。</p> <p>イ・台北第一女子高級中学との研究交流を継続 し、発展充実させる。</p> <p>ウ・GLHS10校の生徒を対象とする広域研修 を企画開発して、実施する。</p> <p>エ・SSHの重点枠を活用して大阪サイエンス デイや近畿サイエンスデイ等を運営する。</p> <p>オ・天高アカデメイアを継続実施する。</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相 談機能を充実させるとともに、支援コーデ ィネーターと養護教諭を中心にチームで対応 する体制と配慮を要する生徒の指導を充実 させる。</p> <p>イ・いじめアンケート結果への対応をいじめ対策 委員会を中心に組織的に行う体制を確立す る。</p> <p>(3) 京都大学、大阪大学との連携協定に基づき 両大学と連携を維持する。</p>	<p>(1) ア・交流行事の参加者満足度 80%以上をめざす。 ・国際交流委員の事後アン ケートによる効果検証 を行い、満足度80%以上 をめざす。 ・校内留学プログラム参加 者満足度80%以上をめざ す。</p> <p>イ・研究交流参加者満足度 80%以上をめざす。</p> <p>ウ・研修参加者満足度80%以 上をめざす。</p> <p>エ・大阪サイエンスデイ第一部 参加者の満足度80%以 上をめざす(R1: 93.3%、R2未調査)近畿 サイエンスデイを継続 実施する。</p> <p>オ・天高アカデメイアの満足 度80%以上を維持する。</p> <p>(2) ア・研修等に2回以上参加 し、そのスキルを教員間 で共有するとともに、教 育相談の実践を積み上 げ、継承していく。</p> <p>イ・いじめ対策委員会を複数 回開催し、情報共有と組 織対応をめざす。</p> <p>(3) 京大キャンパスガイド、阪 大ツアー等を継続する</p>	<p>(1) ア・フィンランドとのオンライン交流 満足度100% (○) ・台北第一女子・ホランドパークとのオンライン交 流は、相手国の感染上の悪化や相手校の事情によ り実現しなかったため、評価できず。(一) ・校内留学プログラム1年92名、2年13名が参加 し、満足度は96%だった。(◎)</p> <p>イ 台北第一女子高級中学との研究交流はコロナ禍 により渡航中止のため評価できず。(一)</p> <p>ウ 1月に一泊二日でGLHS10校の生徒22名に より、関東研修を実施した。満足度100%(◎) 訪問先:量子研、国連大学、日本科学未来館</p> <p>エ・大阪サイエンスデイ第一部参加者満足度98% 近畿サイエンスデイは2月に対面とオンライ ンのハイブリッドで開催した。(◎)</p> <p>オ・天高アカデメイア15回実施 参加者満足度平均99%であった。(◎)</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターが2回の教育相談関連研 修に参加し、本校SCによる職員研修兼PTA 保護者研修を実施した。(○)</p> <p>イ・いじめアンケートの結果をいじめ対策委員会 で共有し、個々の対応について協議した。また校 内で発生した事象の組織対応の指揮をとった。 (○)</p> <p>(3) 京大キャンパスガイドは卒業生の協力により 11/7に実施。感染症対策でGLHS各校10名ま での制限あり。阪大ツアーは11/13に実施した(参 加236名)。(○)</p>
<p>3 教 員 の 資 質 の 向 上</p>	<p>・経験の少ない教員 の育成 ・中堅教員の教育力 向上 ・学校運営のあり方 検討</p>	<p>ア・桃陰塾(着任後の年数が少ない教員の勉強 会)→首席を世話役として年間7回程度の自 主的勉強会(先輩教員の講演、ワークショッ プなど)を行う。 ・年間を通して、教員間等での授業研究を促 進する。</p> <p>イ・学校運営のあり方を見直し、時間外勤務の 縮減に努める。</p> <p>ウ・教科指導力の向上をめざして外部講師等の 指導法講習会への参加を促進する。</p>	<p>ア・桃陰塾参加者の満足度 80%以上。 ・公開授業を含む研究授業 等を学校全体で10回以 上行う。</p> <p>イ・教員全体の時間外勤務合 計を減少させる。</p> <p>ウ・外部講師による指導法講 習等への参加のべ5回 以上。</p>	<p>ア・桃陰塾参加者の満足度100% (◎) ・公開授業を含む研究授業実施のべ27回。(◎) ・「授業力向上を考える会」を3回実施。(○)</p> <p>イ 昨年比で27%増加。(△)</p> <p>ウ 感染症対策によりオンラインでの外部講師によ る指導法動画研修6講座を視聴。(○)</p>